

## はじめに

本市では「ふるさと廿日市に愛着と誇りをもち、未来を担うひとづくり」の基本理念の下、第2期廿日市市教育振興基本計画を定め、計画的に教育施策に取り組んできました。

学校教育では、社会が激しく変化する中で、次世代を担う子ども達が、生涯にわたり、自ら学び、考え、協働して課題を解決する力を身に付けることができるよう、「主体的に」、「協働的に」学ぶ取組を進めてきました。社会教育では、全ての人がいつでも自由に学習し、気軽につどい、学習の成果が生かされ、地域の絆を大切にしたい学びを進めています。郷土の歴史や文化の継承においては、世界遺産「厳島神社」をはじめ地域に受け継がれてきた歴史や文化を次世代につなげていくために、文化財の保護や幅広い活用に取り組まれました。また、市民の誰もが芸術文化やスポーツに親しみ、豊かな生活が送れるように、活動を支援してきました。

そうした中、昨年来、世界中を巻き込み猛威を振るった新型コロナウイルス感染症は、今もなお収束の目処がつかない状況にあり、影響は様々に及んでいます。学校教育では、長期間に及ぶ休校を余儀なくされ、あるいは行事を制限されるなど重大な影響がありました。その間、学校、家庭や様々な方々が、子ども達にとって健やかな育ちを支えるため、それぞれの立場で懸命な努力が払われました。また、このことがきっかけに改めて第2期廿日市市教育振興基本計画で取り組んできた学校教育や社会教育の施策の重要性が再認識された機会でもありました。

更に今後、我々の社会が迎える人生100年時代、そして超スマート社会の到来は、変化が激しい中にあっても、次代を担う子ども達が豊かに、そしていきいきとした人生を送るためには、個々の感性や創造性を発揮し、身に付けた力を活かし、他人と協働していくことが求められます。

コロナ禍で一気に基盤が整ったGIGAスクールをはじめ、つながりの重要性に気付かされた地域社会と連帯するコミュニティ・スクールなどの取組を基に第3期廿日市市教育振興基本計画をまとめました。

この計画では、第2期廿日市市教育振興基本計画に引き続き、「ふるさと廿日市」のすばらしさに気付き、先人や地域の人々、自然等に感謝し、愛着と誇りをもち、廿日市市に住み続けてまちの発展に寄与する人、あるいは遠くにいても「ふるさと廿日市」を思い、語れる人を育てていくことを目指しています。また、いかに社会が変化しても、直面する課題の克服に向けた幅広い知識と柔軟な思考力を有し、自立した一人の人間として、他者と協働しながら、力強く社会を生き抜いていく力を育てていくことを目指しています。

この計画に基づいた施策を展開し、廿日市市の学校で学んでよかった、廿日市市に住んでよかったと思えるように、教育の振興に努めてまいりたいと考えています。

より一層のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

令和3年6月

廿日市市教育委員会  
教育長 生田徳廉